

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	(株) イクロス		
事業所名	グループホーム パル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3072400538-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい理念を構築し、それを目標に利用者が充実した日々を過ごせるように職員が努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、職員で考え見直した理念を「共に笑顔で過ごそう」と掲げ、地域の中で共に笑って過ごせるよう職員も笑顔で日々のケアを実践し、利用者の笑顔に繋がっています。管理者は職員の提案や意見を前向きに聞き、情報の共有を深めるため報告・連絡・相談の徹底や話し合う機会を増やしチームワーク良くケアに当たっています。町役場と定期的に意見交換や情報交換を行い協力関係も築いています。また、介護の日に合わせ地域へ認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深めていく取り組みを計画に挙げ、地域に根差したホームとなるよう努めています。利用者が重度化していく中で看取りの支援を行えるよう往診医に来てもらえる体制を整え、看取りの支援に取り組み重度になっても地域で安心して暮らし続けられるような支援を目指しています。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回指摘があり、理念を職員で考え、新しい理念を踏まえ、日々利用者に向き合い、介護できるよう努めている	理念の見直しについて職員全員にアンケートをとり笑顔を大切に地域を意識したわかりやすく簡潔な理念を作り、玄関や事務所に理念を掲げ意識してケアに当たるよう努めています。利用者の笑顔を引き出せるよう職員は利用者本意に考え笑顔で利用者に関わっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の祭りやイベントなど、参加できる機会を作り、利用者が地域と交流できるようにしている	地域とのつながりを大切に考え、回覧板で地域の情報を得て夏祭りや敬老会、小学校で開催される地域交流会では中学生の演奏会もあり、子供たちとのふれあう機会になっています。地域の歌や踊りのボランティアが訪れ、また実習生を受け入れたりスーパーに買い物に出掛けた際に近所の方と出会い気軽に挨拶するなど、日々交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とつながりをもてるようにし、そこから事業所として発信できるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常や、サービスの現状を、すべて報告し、意見を伺い、話し合った事を活かすようにしている	会議は地域包括支援センター職員や役場の職員、町民代表、家族代表の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。現状や活動報告、外部評価の取り組みや内容を説明し、また11月11日の介護の日に合わせ町内会へ認知症サポート養成講座を開くと呼びかけ、認知症について理解を深めてもらう取り組みを伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り、信頼関係を築く努力をしている	担当者の運営推進会議への参加があり、役場へは度々出かけ、わからないこと等気軽に相談し合える協力関係が築かれています。グループホームの役割についてシンポジウムのパネラーの依頼を引き受けたり、研修案内が届いたときは参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より、身体拘束に対して意識を持ち、自身の行動を振り返り、情報を共有しケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修や外部の講師による内部研修に参加した職員は事例等に基づいた報告書をもとに周知に努めています。繋がる言葉掛けについては手を離せない理由を説明し納得してもらえるような対応に努めています。玄関は施錠せずエレベーターにも自由に乗り、外に出て行く様子が見られたら付き添い、拘束間を感じない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について学び、虐待が見過ごされないよう注意しケアに取り組んでいる		

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じて、権利擁護に関する知識を深め利用者の必要性に応じて地域包括センターや社会福祉協議会等と連携を取り、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約の前の段階で、不安や疑問点などに十分な説明を行い、納得して頂いてから契約させて頂き、改定等に対しても十分な話し合いを持ち、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で意見や要望を表わせる機会を設けたり、定期的な介護相談員の訪問を受け、外部者に表わせる機会を設けている	運営推進会議や家族会、面会時には状況を伝えながら意見を言ってもらいやすい雰囲気作りを心がけ、電話連絡する時にも意見や要望を聞いています。介護相談員を受け入れ利用者の意見が言える機会があります。得られた意見から脱水症状に至らないよう飲みやすいもの提供し、全利用者の水分摂取量に気を配るようにする等、運営に活かせるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を常に聞くようにし、話し合いを持ち運営に反映できるようにしている	日常的に意見が言いやすい雰囲気があり、1日3回の申し送りや2ヶ月毎の部署会議で提案や意見が出されています。食事形態や排泄についてケア上の意見や提案は記録にしまとめ、ミーティングで方向性を共有し反映できるよう取り組んでいます。管理者は職員の様子を見て随時個人面談を行ったり、施設長による面談も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等も設け、資格取得などの個々のスキルアップの為に協力し、向上心を持ち働き続けられる職場となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った外部研修に参加する機会を設け、社内研修の参加も義務付け、スキルアップにつながるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通してや各種実習生の受け入れの場を提供する事で交流する機会を作っている。そこで得た情報・意見など、サービスの質を向上させる為に取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、すでに本人からの明確な要望を聞ける状態でない場合が多い為、家族からの要望等を聞き、周りからの情報収集を十分に行い、本人の安心を考えた関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安全を考えた上で、家族の不安や要望等に耳を傾け、家族にも安心して頂けるような信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集を行い、本人の状態を見極め、本人や家族が一番必要としている支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に合わせた対応を行い、本人本位の生活を送って頂き、共に生活していると感じて頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各々事情があり難しい事もあるが、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていけるような関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が築き上げてきた馴染みの人や場所を大切に、これからも関係が途切れないよう支援し続けるよう努めている	行きつけの理容室の送迎や自宅前のスーパーに出かけ近所の方に出会えています。正月の外泊や本人の希望の墓参りは家族と一緒に出かけしています。生まれ育った自宅に帰りたいという要望に職員が付き添い兄弟にも会えたり、また買い物の帰りに自宅周辺をドライブすることもあります。また遠方の親せきの方や兄弟、近所の方、友人が面会に来られた時は居室に案内し気兼ねなくてゆっくり過ごしてもらいなど、馴染みの人や場との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や個性、感情の変化を把握したうえで、利用者同士が関わり支え合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなりサービス終了となる場合が多く、その後関係も自然と薄れてしまう。お見送りに参りさせて頂いた後は、偶然出会う程度となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を理解するよう努力する事で、自己決定の場を設けるようにし、できる限り本人本位の暮らしができるよう努めている	入居時に本人や家族と面談し思いや意向等を聞き、以前のケアマネージャーの資料を参考に生活歴や趣味等を把握しています。入居後は日々の関わりの中で様子やしぐさ、発した言葉、気づき等を記録し思いの把握に繋げ、困難な時は家族や前ケアマネージャーに聞き本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人からの情報収集を行うようにし、家族・ケアマネージャーや関係者からの情報収集から本人のことを把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、一日の過ごし方、心身状態、有する能力の変化に注意し、現状の把握の努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人本位の暮らしができるよう現状に即した介護計画を作成している	以前のケアマネージャーの情報や本人、家族の希望を基に原案を作成し、ケース会議で職員と話し合い介護計画を作成しています。3ヶ月毎に評価と確認を行い、更新時や状況に変化があれば再アセスメントと見直しをしています。往診時に医師や看護師の意見を聞き、面会時に聞いた家族の意見を計画に反映させています。2ヶ月毎のミーティングで利用者の状況を話し合い計画の見直しに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別記録の記入を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かし、実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる利用者のニーズに対応し、職員の増員等の柔軟な対応も行っている		

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折、ボランティアに訪問して頂き、いつもと違う雰囲気を感じてもらったり、個々の能力に合わせた避難方法や経路を知ることのできた暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5月より、往診が始まり、家族の希望を聞き、今まで通り受診される方の対応もさせて頂きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	これまでのかかりつけ医や往診医について説明し、往診医へ変更された方は月2回の往診を受けています。従来通りかかりつけ医や専門医の受診は職員が対応し、情報提供や結果は家族に連絡しています。訪問看護師による週1回の健康管理や日中の体調の変化については同法人のデイサービスの看護師にも相談ができ、また看護師が夜間の介護職員として配属され夜勤帯の利用者の状況を把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、利用者の心身の状態や気づきを訪問看護師に伝え、助言または医師との連携で適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように訪問看護師との連絡を密に取り、往診時の医師や定期受診の際にも情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と終末期のあり方は話し合っていないが、家族とは入所時より事業所の方向性を説明し、重度化等で必要となった時には、家族・医師、必要な方々と十分話し合いを行えるよう取り組んでいる	入居時に看取り指針に基づいて支援出来ることと出来ないこと等ホームの方針を説明しています。看取りの時期やその時の状況に応じて医師と家族の話し合いが行われ、希望にそって方針を共有しながら支援しています。職員は急変時の対応や不安なことは管理者や看護師に連絡できる体制ですが、今後看取りについて知識や対応について学ぶ機会を作る予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年一回の訓練と緊急時の対応に関する研修を行い実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年一回の訓練を行い利用者と共に参加し、個々の力に応じた避難方法や経路を確認している。白浜消防署や自治会にも協力をお願いし、家族との協力体制の築いている	消防署の立ちあいのもと年2回、昼夜を想定して共同の避難訓練を行い、消火器の使用方法や新通報システムの説明をし、避難誘導等を利用者と一緒に進めています。訓練については運営推進会議で伝えたり、町内会や家族には案内を出し参加を依頼しています。津波の避難場所にもなっており、水や食料品の備蓄もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や力に応じ声掛けや対応を行っている。尊厳を保ちプライバシーを損ねるような対応にならないように注意している	認知症ケアや虐待について等、様々な研修に参加しミーティングの中では日頃のケアに不適切な対応をしていないか振り返っています。目上の人として言葉遣いに重視し視線を合わせ、ひと呼吸おいてゆっくりとした声かけを心がけています。排泄時もさりげない言葉かけで周りに配慮をし、夜中の混乱時には安心に繋がるよう馴染みの呼び方で呼び家族の了解も得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定して頂けるような対応を心がけ、思いや希望を表わせない利用者には表情や仕草から思いをくみとるよう努力しできる限り自己決定に近い支援になるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決め事や都合を優先する時もあるが、できる限り本人のペースに合わせた一日を過ごすことができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みでその日の洋服等を選んで頂きおしゃれを楽しめるよう支援している。表わせない利用者にはその人に似合うようなものを選ぶように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの物を献立に入れたり、利用者の力に応じた準備や片付けを行って頂き、又職員と一緒にできるよう支援している	管理者は栄養バランスに気を配り、専門の本を参考に1ヶ月の献立を考え、昼食に重きを置き利用者が食べたい物を取り入れ満足の得られるメニューへの配慮をしています。買い物は利用者と一緒に出かけ、準備や後片付けは一人ひとりの出来ることに関わっています。職員は同じテーブルを囲み同じものを食べ会話をしながら和やかな食事の時間となるよう支援し、外食には重度の方も出かけ食べやすい食事形態にしたり、誕生日には好きな物を取り入れを楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、個々に食事量や水分量を記録し、不足している時には好みの物で補うようにしている又その人の体調に合わせ食事の形態やメニューを変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアの支援を行っている		

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレの排泄が行えるよう一人ひとりの力や排泄パターンに応じた声掛けを行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を個々に合わせて行っています。昼間は布下着で過ごし夜は紙パンツの方や家族の希望でポータブルトイレを置き安全面にも配慮しています。外出時や水分量でのパットの大きさの検討や排泄状況を看護師に相談する等、現状維持や排泄の自立に向けての支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れた献立を作り、体調に合わせた軽い運動を取り入れたり、水分摂取に気を配り、慢性的な便秘の方には、医師が処方した便秘薬にて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を引いた大浴場は入浴の曜日や時間帯が決まっているが、決められた中で個々の希望やタイミングに合わせた支援を行っている	入浴は週3回で2時から4時位を目安に入ってもらい希望があれば毎日入浴も可能です。温泉湯の大浴場ですが季節には柚子湯を楽しむこともあり、温泉気分を味わいながらゆっくり入ってもらえるよう支援しています。個浴を希望される場合はいつでも対応できるよう個室も整備しにしています。拒否される利用者については時間を変えたり、タイミングを見て声かけの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースのソファなどで自由に過ごして頂き、夜間は個々の居室で休んで頂く、その際は室温や入眠状態に気を配り安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬について、ほぼ理解しており、利用者の力に合わせた服薬支援を行い、症状の変化に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の流れの中でその人に合った役割を担って頂き、張り合いや喜びを感じるよう支援している。又、季節に合った行事を取り入れ楽しみごとが増えるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望にできる限り添って外出できるよう支援している、身体機能の低下に伴い外出を好まない利用者も多くなっているが車イスを利用するなど負担がかからないよう支援している	天気の良い日は車椅子の方も近所を散歩したり、テラスや玄関前で景色を見ながらの外気浴は日常的に行っています。近隣をドライブしたり、季節には梅や桜の花見や紅葉を見に出かけています。故郷に帰りたいとの利用者希望が実現できたことから、これからも一人ひとりの願いが叶えられるよう希望にそった外出支援をしていきたいと考えています。	

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多くほとんど所持されていない。家族と相談の上で紛失しても差し障りの無い程度の金額を所持して頂いている方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、電話をかけたり、手紙を書こうとされることがあまり見受けられない。字が書ける方は手紙を受け取ると返事を書くよう促したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上防ぐことのできない点もあるが、利用者の不快感が軽減できるように努めている季節に合ったイベントや飾りなどで感じて頂けるようにしている	フロアは吹き抜けになっており窓からの日差しはロールカーテンで調節したり温度や湿度に気を配り、また、壁や床のリフォームにより明るくなり快適に過ごせる共用空間作りに努めています。家庭的な雰囲気を作り、広いベランダに洗濯物を干したり、利用者と食事作りをしています。季節を感じてもらえるようプランターで季節の花や野菜を栽培し、ソファやテーブルの配置はその時々々の相性に合わせ居心地の良い空間になるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き自由に使用して頂ける場所を設けている テーブルも新しくし、身体的なことや気の合うもの同士で過ごせ居心地がよくなるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の住み慣れた形に近づけるようにし、使い慣れた馴染みのものを置いて頂いたり、利用者の方が居心地よく過ごしていただけるよう工夫している	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうよう説明しています。居室はフローリングですが希望される場合は畳を使用してもらっています。テレビ台や寝具、掃除機等使い慣れた物が持ち込まれ、これまでの生活が継続できるよう支援しています。家族の写真や飾り、家具の配置は本人や家族と相談しながら利用者の様子に配慮し職員が決めています。毎日換気や、掃除機を使って掃除をする習慣を継続し居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人ひとりのできることを理解し、その人の力に応じた行動ができるように工夫し、安全に過ごせるように努力している		